

## 平成 30 年度第 1 回神戸市保健医療審議会 議事要旨

日時：平成 30 年 8 月 31 日（金）午後 1 時 30 分～3 時 00 分

場所：神戸市役所 1 号館 28 階市会第 4 委員会室

### 【議事要旨】

#### 1. 開 会

##### ○事務局

委員総数31名のうち、本日の出席者は22名で、過半数に達しており、会議は成立している。

#### 2. 委員紹介（資料 1 及び資料 2）

#### 3. 議 題

##### （1）会長及び副会長の選任について

##### ○事務局

本審議会の委員の任期は、神戸市保健医療審議会規則で 2 年と定められており、今年度の 7 月 19 日をもって新たに委員の委嘱をさせていただいている。

そのため、神戸市保健医療審議会規則第 4 条第 2 項の規定に基づいて、会長及び副会長の選任をさせていただきたい。

委員からの推薦が無いようであれば、事務局から会長については、引き続き、神戸大学大学院医学研究科長の的崎委員にお願いしたいがいかがか。

（異議なし）

##### ○事務局

会長を補佐し、会長に事故がある場合等に職務を代理していただく副会長についても、選任させていただきたい。

事務局としては、引き続き、神戸市医師会長の置塩委員にお願いしたいがいかがか。

（異議なし）

## (2) 兵庫県保健医療計画 圏域重点推進方策【神戸圏域】の策定について（資料3）

（事務局より資料3について説明）

### ●委員

10ページに、回復期機能病床数が1,814床、将来的には5,032床とあり、11ページに、「国の見直しを踏まえて、各医療機関への適正報告を周知する、病床機能についても取り組みを把握する」とあるが、神戸市は具体的にどのように実施していくのか。実際には、急性期機能病床の中でも、回復期機能を担っているところもあるのではないかと。どのように整理をするのか。

### ○事務局

委員ご指摘のとおり、病院によっては必ずしも正しい報告がなされていない部分があるため、公的病院については、病院ごとにヒアリングをし、病床機能報告をかなり詳しく見ている。民間病院についても、今後、県がアンケート調査を実施するなどして、病床機能報告の内容を精査することを検討中であると聞いている。

### ●委員

15ページの「他圏域との連携」について、近隣、特に三田市と連携して医療確保を推進していくとある。三田市当局は、北区藤原台の済生会病院と三田市民病院の統合を考えていると聞いている。三田市は、神戸圏域の病床を三田（阪神圏域）に移すというような考え方を持っているようだが、その点について、神戸市の考え方はどうか。

### ○事務局

済生会病院は公的病院であり、済生会病院から提出を受けた公的病院改革プランに基づいてこの病院の将来像について、今、神戸市の地域医療圏域の調整会議の中で議論をしている途中である。市会でも申し上げたとおり、まだ議論中であり、調整会議は県の事務を委任して行っているため、この議論がまとまり次第、公表するということをご理解いただきたい。

### ●委員

神戸圏域の中で、北区の北神を拠点とした総合病院である済生会病院が、例えば、病床が少なくなったり、診療科目が減って総合病院でなくなったりするのは、神戸市にとっても、神戸市民にとってもよくない。神戸市の北神の市民の命を守る立場から、機能

がどんどん三田に流れていくことがないようにしていただきたいと思うが、その点については、いかがか。

#### ○事務局

小児医療、あるいは周産期医療について、大学と連携しても医師の確保は困難であるという状況がある中で、それをどのように行っていくかという話になる。

済生会病院については、母子周産期医療センターということで、兵庫県・国の補助金もいただいております、周産期医療の拠点である。それは神戸では中央市民病院、こども病院、神戸大学病院と済生会病院だけが担っているのも、非常に大事な機能であるという認識はしている。

ただ、一方、神戸市内では、病院の小児病棟が閉鎖し、小児病棟がない区が出ているということは事実であり、北部・北神地域は、三田市とかなり共通の医療圏を持っているということも事実で、かなり患者の行き来はあるということも把握している。

#### ●委員

7ページ「(2)医療従事者」で、医師不足の原因として、様々な病院で、大学からの派遣医師の引き上げで小児科等が閉じるという問題が起きている。引き上げるのではなく、大学からたくさん派遣し、神戸の医療体制を強化していただきたいと思っているが、いかがか。

#### ●委員

大学医局の派遣医師を引き上げているのではない。様々な制度の改革の中で、今は、若手の医師が、キャリアアップを考えるうえで病院を選択する時代に入っているため、病院そのものの魅力づくりがないと、時代背景もあり、強制的な派遣はできない。拠点となる、若い医師にとって魅力ある病院をつくる中で大学も一緒に地域医療を充実していくという方向で考えている。

#### ●委員

状況は理解したが、やはり若手医師のキャリアアップや、魅力ある病院づくりという点では、神戸市もいろいろと協力できることはある。今、あちこちで病院が統合して大きな病床を持っているが、大体は圏域内での統合であり、先ほど話をした三田と北神の関係で言うと、医療体制での協力は良いが、神戸の病床がなくなってしまうというような事態は、やはり避けるべきだと要望する。

●委員

26ページの「まちかど救急ステーション」への登録に関して、今まで市内で案内や掲示をあまり見たことがないが、これは、どこが中心になってやっていて、今後どのようにして展開し、市民に知らしめていくのか。

○事務局

「まちかど救急ステーション」は消防局が中心となってやっている。市内のAEDを設置している各事業所に、消防の職員が出向き、AEDの市民への提供について働きかけを行い、事業所の協力が得られれば、それを「まちかど救急ステーション」として広く市民の方に周知していく。

**(3) 平成30年度の保健医療に関する主な取組み報告について(資料4)**

(事務局より資料4について説明)

●委員

会議のあり方について一つ提案したい。1時間半近くかかったが、配付された資料の説明で終わってしまう。資料をあらかじめ配っておいて、質問があれば、事前に質問内容を周知しておけば、答える人は答えやすく、ディスカッションになり、有意義な会議になるのではないかと思う。そうすることで、会議の時間を短くし、さらに有意義な会議ができると思う。

●会長

非常に貴重なご意見であった。今日は内容が豊富で、説明の要約にも四苦八苦されていたところも若干見受けられた。資料の事前配布等の工夫はご検討をお願いしたい。

●委員

在宅介護・在宅医療について、もう少し詳しく説明をお伺いしたい。先日、老人会の会合で、2025年には、在宅医療の方が1万人も増えるだろうという説明があり、介護施設になかなか入れないのではないかという不安を持っている方がたくさんいる。これだけ高齢化が進んで、介護職員が少なくなった現状を考えると、不安は払拭できないと思う。たとえば10年後、在宅医療・介護は充実しているのか、医師、看護師、介護士、保健師は充実しているのか、十分な対応ができるのかどうか、ご説明していただきたい。

#### ○事務局

委員ご指摘のとおり、2025年問題、地域包括ケアシステムを国が提案していること自体がその問題であり、特に介護施設については、市内でも各地の介護施設で人手不足が出ている。10年後には、介護人材については、6,000人弱ほど不足すると予測しているが、人数の話をする、現実的には非常に難しい問題であり、少しでもそのギャップを縮めるための努力が必要である。広い意味で言うと、健康寿命を延伸していくことが重要で、5期と6期の介護計画で、健康寿命を2025年に向けて2歳延ばすということを考えている。具体的な方策として、今回の介護保険事業計画からは、「フレイル予防」をすることで、要介護率を下げるというのが一つの方策である。

また、認知症については、医師会・市内の医療機関の先生方のご協力で、認知機能が衰えたら、認知症かどうかチェックをする早期診断制度をとる予定である。認知機能が衰えただけで、認知症になっていない方については、認知症予防がある程度可能とのことなので、予防施策をとっていく。

このように、介護予防、認知症予防を行うことによって、委員ご指摘の「将来的な人材不足」も、ある程度解消できるのではないかと考えており、全市的な視点から進めて参りたい。

#### 4. 閉 会